



学校法人
冬木学園

カトリア通信

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2 TEL 0745-54-1601 FAX 0745-54-1600

ホームページアドレス <http://www.kio.ac.jp/>

Vol.15
2007.11.15号

野に咲く花

今朝の新聞に奈良新聞文化賞受賞者としての記事が一面に掲載され、また四面には[一代で総合学園築く]の見出しで、何れも写真と共にくわしく60年の歩みが記述されていました。早速あちこちよりお祝いの言葉がよせられ有難い日を迎えることになったのでした。

それにつけても私は今日もまた80年以上も前と変わらない気持ちで、大和の野辺の姿を目にしつつ歩みつけてきたことに今更の如く想いを新しくしています。

歩き始めた幼い頃、裏の畠で小さい手にふれた露草の玉のような清らかさ。小学校の帰り道、池の堤で手一杯摘み取った可憐なレンゲ草。それを上手に繫いで首飾りにして遊んだ幼友達。制服のセーラーカラーの女学生時代に眺

学校法人 冬木学園 理事長
畿央大学 学長

冬木 智子

めた美しい堇の花。長い年月を経た今も、野に咲く花は色あせることなく瞳にやきついています。今日も飛鳥路を過ぎると畑一面にコスモスの花が秋風に一勢にゆれていました。

野に咲く花は人に見られて美しいと思われるために咲いているのではないと思います。

人も年齢や性別に関わりなく相手の心をなごませてくれるさりげないほほえみこそ、自然に相手を幸せに導いてくれるのではないのでしょうか。即ちそれこそみなさんの学園の精神である徳をのばすことであります。



本学園をそれぞれの年に卒業された方々には、いつ迄も優しい心で、しかも苦しみに耐える芯の強さと、美しさに感動するゆたかさを失うことなく生きて行かれることを今日も心より願っています。



4月に看護医療学科開設

看護医療学科長(予定) 伊藤 明子

初秋を運ぶさわやかな涼風を肌を感じホット一息する時期を迎え

た9月28日、看護医療学科の設置が認められました。看護学科設置プロジェクトの立ちあげにあたり、私は大学のキャッチコピー「やさしさを『チカラ』にかえる」に心をひかれ、準備のお役に立ちたいと思いました。カリキュラム構築、実習病院依頼、教員採用等々、多方面の方々のご協力やご助言のお陰で準備は順調に進み、不安を抱えつつも夢が現実となりました。これは一重に本学のこれまでの努力と信頼の賜と深く感謝しています。10月6日には就

任予定教員が初めて一堂に会し、設置の趣旨等の説明会を開催しました。冬木学長の挨拶の言葉、建学の精神に感動し、「すぐにでもこの大学で教育したい」と熱い思いを伝えてくださる方もいて私も力を頂きました。看護医療学科開設が、本学のさらなる発展に繋がるように充実した看護教育に邁進したいと決意を新たにすると共に身の引き締まる思いです。

平成4年「看護婦等人材確保法」施行以来、急速に看護教育の大学化は進み、来春は全国の看護系大学は174校になり、各大学には個性化と卓越性が求められる時代です。幸い本学は健康と教育に特化した大学で、学生は、アプローチは違っても人に関わる共通の目

標を持っており、学部・学科の枠を超えたコラボレーションが可能です。これらの教育環境は、これからの医療や社会のニーズに対応した「チーム医療」に貢献できる看護職の養成の力強い支えとなります。それぞれの専門職がその役割と機能を十分認識することが患者中心の医療に繋がると思います。アメリカでは「クリニカルナラティブ」が盛んですが、「私はこんな看護をしました」と、自分の臨床の体験を語る看護職に育ってほしいと思います。皆様のご支援ご鞭撻を宜しく願います。

CONTENTS

理事長メッセージP1
畿央大学P2~11
関西中央高等学校P12~14
畿央大学付属幼稚園P15
冬木学園P16

看護医療学科開設記念シンポジウム

「心の処方箋～輝くいのちのために～」を開催

2008年4月に健康科学部に看護医療学科を設置することを記念して、8月2日、聖路加国際病院理事長の日野原重明先生を迎えて、シンポジウム「心の処方箋～輝くいのちのために～」を冬木記念ホールで開催しました。これは、畿央大学と朝日新聞社（広告局）が主催して開いたもので、約3千人の申込者の中から抽選で選ばれた約600人の聴衆でホールはいっぱいになりました。

シンポジウムは冬木智子学長の挨拶に始まり、第1部は日野原先生が基調講演を、第2部の座談会では、日野原先生に冬木学長と来年4月に看護医療学科長に就任予定の伊藤明子教授が加わり、看護医療学科のカリキュラムの特徴や看護師に求められる資質などについて対談が行われました。

日野原先生は、95歳でなお現役の医師であり、人の生き方について多くのベストセラーを出されていますが、基調講演では、輝いて生きるためのヒントとして心と体に関する「生活の処方箋」（心の処方箋）についてお話がありました。

その中で、「いわば輝いて生きられない

状態というのは、心の太陽に雲がかかっている状態であり、それを取り除いていのちを輝かせるためには、まず体を動か

すことが一番であること」、また「食事は腹六～七分目、特に60歳を過ぎて、よほど重労働をする人でない限り、食べすぎは厳禁であり、カロリー控えめの食生活こそ、長寿のコツであること」、さらに「年齢に関係なく、人間にとって一番美しい表情は笑顔であり、話すときは努めて明るい声を出すこと」、など「心の処方箋」について自らの実践を交えながらユーモラスな語り口でお話をされ、会場が大いに沸きました。

結局、健やかに生きるためには、生活習慣を見直すことが大事で、睡眠や食事、運動など、習慣こそが自分を作るということを心にとどめ、毎日輝いて健やかに生きるための習慣を身につけることが大事であるとされました。そして「健やか」とは、病気であるか否かとは関係なく、心が満たされている状態こそ最も「健やか」であり、その人にとって幸せな状態であると締めくくられました。

第2部では講演を受けて、今の医療現場で課題に感じることを、日野



冬木智子学長

原先生から、訓練された看護師に限り、看護だけでなく職務にもっと柔軟性を持たせても良いのではという意見とともに、さらに患者を思いやる気持ちを持った適性のある看護師を養成してほしいとの要望が出されました。冬木学長からは文字通り憂いのわかる「優しい」看護師を養成していきたいということ、看護師といえども、看護のみならず医療知識もわきまえた人材を育てたいという思いから、学科名も単なる「看護科」とせず「看護医療学科」にしたことなどの説明がありました。伊藤教授からは患者から信頼され、笑顔でケアできる看護師を育てるために、早期体験実習や離島・へき地での医療体験実習などカリキュラムにもさまざまな工夫を凝らしていること、こうした学びを通じ、看護の基本であるコミュニケーション能力やチーム医療で活躍できる総合力、現場で求められる実践力や判断力の養成を目指していることが表明されました。日野原先生からは、最近の若者が他人とのコミュニケーションを苦手としているのは、家庭でのコミュニケーション不足も関係していることや、患者の痛みを理解するのは、実際に自分が病気を体験したことがない人には難しく、医療従事者は死なない程度の病気をした経験がある人がなったら良い、などユーモアを交えた提言がなされ、議論が展開されました。



伊藤明子教授

最後に、日野原先生から、生きていれば、病気以外にも、さまざまな苦しみやつらい目に遭うこともあるが、うまくことが運ばなくとも絶望するのではなく、成長の機会と前向きにとらえるポジティブさを持つことが輝いて生きることにつながるのと、励ましのお言葉をいただきました。

最後に、日野原先生から、生きていれば、病気以外にも、さまざまな苦しみやつらい目に遭うこともあるが、うまくことが運ばなくとも絶望するのではなく、成長の機会と前向きにとらえるポジティブさを持つことが輝いて生きることにつながるのと、励ましのお言葉をいただきました。



健康科学研究所開設記念 シンポジウム開催

10月13日、畿央大学冬木記念ホールにおいて、脳科学の立場から健康にアプローチするシンポジウム「健やかに生きるために～脳とこころの科学からの新たな挑戦～」が開催されました。

これは、本学の研究活動の中心となる「畿央大学健康科学研究所」が本年4月に開設されたことを記念して企画されたもので、冬木智子学長、森友彦



伊藤正男先生

研究所長の挨拶、近畿経済産業局、奈良県経済同友会の祝辞のあと、世界的な脳科学者である伊藤正男先生（理化学研究所脳

科学総合研究センターディレクター）が特別講演として「脳科学のめざすところ」のテーマでお話をされました。

伊藤先生は小脳の記憶システムの研究で知られ、脳科学の立場から人の意識の解明にも迫ろうとされています。講演では、大変難しい脳の機能についてわかりやすい表現で説明され、「こころ（意識）」の解明が大変困難なことなど脳科学の基本から研究の現状、最先端の内容まで紹介されました。

質疑応答では、健康に関する職業に携わっている参加者から現場活動への

アドバイスが求められるなど、熱のこもったやり取りが行われました。

特別講演のあとには、森岡周・本学健康科学部教授の司会で、金子章

道・本学健康科学研究科長・「光と脳と健康」、森友彦・研究所長・「食品のテクスチャーに期待される健康機能の課題」、山本隆・本学研究所客員教授・「おいしく味わうことは健康の源」について、それぞれの研究分野と脳機能との関連について話題提供が行われました。本学教授陣の研究の広がり「健康」をキーワードにしたコラボレーション、産官学共同などの可能性が示されたシンポジウムとなりました。

また、休憩時間には、本学が導入した脳（近赤外線）イメージング装置（fNIRS）の機能や実際に使っている場面を紹介したビデオが流されました。

シンポジウムのあと参加者を対象に学内施設見学会を実施し、研究用計測・分析機器等に関して、具体的にどのようなレベルの機器がどのような環境で使用されているかを見ていただきました。脳の研究で話題の近赤外線イメージング装置や小型のCT装置、粒度分布測定装置等の特殊な機器を中心に、生理機能・運動機能・食品分析・環境分析など、分野ごとの機器を見ること



で、本学の研究にける思いと現在の研究の状況を知っていただくものとなりました。

健康科学研究所は、本学の学術研究水準の向上とともに産業界や行政、他大学・研究機関との共同研究を推進し、社会に貢献することが大きな使命となっています。今回のシンポジウムは、

来賓祝辞をいただいた近畿経済産業局、奈良県経済同友会のほかにも多くの国や地方自治体の機関、経済団体、企業から後援・協賛をいただき、シンポジウム後の交流会でも今後の活動に向けて熱心な議論が交わされました。本学の研究シーズに合った共同研究・受託研究の可能性をご検討いただき、実現に向かうことが期待されます。



森友彦 研究所長

●後援いただいた各種団体

近畿経済産業局／近畿農政局／奈良県／大阪府／和歌山県／三重県／奈良市／香芝市／大和高田市／桜井市／広陵町／奈良県教育委員会／大阪府教育委員会／奈良市教育委員会／香芝市教育委員会／広陵町教育委員会／奈良県商工会議所連合会／奈良県経済同友会／奈良県経営者協会／奈良県商工会連合会／奈良県中小企業団体中央会／奈良工業会／奈良県理学療法士会／朝日新聞社／日本経済新聞社／毎日新聞社／読売新聞社／産経新聞社／奈良新聞社

●研究所の目的と課題

研究所は、学内外の諸機関との連携を図り、健康に関する学際的、総合的な研究を推進します。本学の学術研究水準の向上と地域における健康づくりから、国際的視野に立った健康で心豊かな社会の実現に貢献することを目的として、次の課題に取り組みます。

- (1) 研究活動基盤の整備と充実
- (2) 研究ネットワークの形成と促進
- (3) フロンティア研究・事業創生の推進と支援
- (4) その他研究所の目的を達成するために必要な課題

●研究所の事業

- (1) プロジェクト研究等を中心とする研究・調査活動
- (2) 学内研究者・研究グループと地域・企業・団体との間の交流および共同事業に関するコーディネート
- (3) 学外機関からの受託研究、学外機関との共同研究、その他学外からの委託による研究・調査・翻訳等
- (4) 研究会、講演会、公開講座等の開催
- (5) 研究成果の公表および刊行
- (6) 図書・資料等の収集および管理
- (7) その他研究所の目的・課題を達成するために必要な業務

学生支援GP採択

わが国における健康課題の中心は生活習慣病対策であり、一次予防の重要性が指摘されています。生活習慣病予防・改善のために、より良いライフスタイルを含めた健康管理、健康の保持増進の重要性が叫ばれ、健康日本21や健康増進法が制定されました。

そこでは自らの健康は自らが護るという認識に立ち、その推進のための保健施策事業として健康教育は、最も重要な柱と位置づけられています。

本学の学生は、将来、医療や健康、教育の仕事に就き、あらゆる場面で健康教育に関わることとなりますが、睡眠や食事等の生活習慣の改善が必要なものもかなりいるのが現状です。健康教育の成果は、指導者からの一方的な指導や説明には限界があり、自らが栄養、運動、休養、喫煙などのライフスタイルを改善し、継続できるように働きかけること、すなわちセルフケア能力の育成が重要となります。

そこで、すでに本学が構築している学

習支援や課外活動を支援する「畿央大学総合支援システム(KiTss)」の中に健康支援システムを加え、自律型学生を育てることを目的として、「学生向け健康支援システムー健康で規則正しい生活が勉強する学生を創るー」を、平成19年度「新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム」(文部科学省)に申請しました。

このGP (Good Practice) は、全国の大学が実施している教育、研究、地域連携や学生支援等の取組みの中から特に優れているものを文部科学省が支援するもので、全国の大学から207件の応募があり、48件が採択され、畿央大学がその一つとして選ばれました。

図1はKiTssにおける健康支援システム、図2は組織運営体制です。システムの構築と運用はもとより、全学

畿央大学総合支援システム (KiTss)

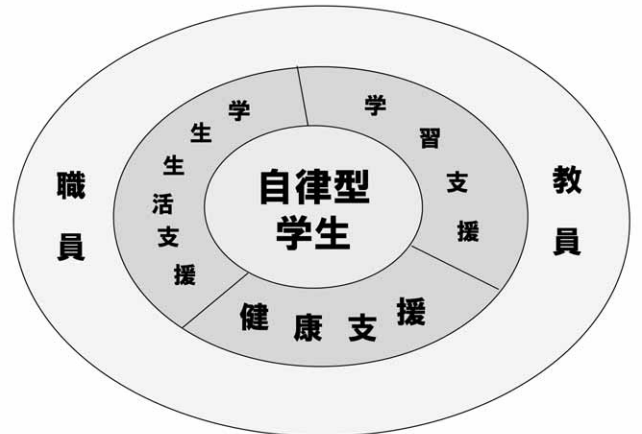
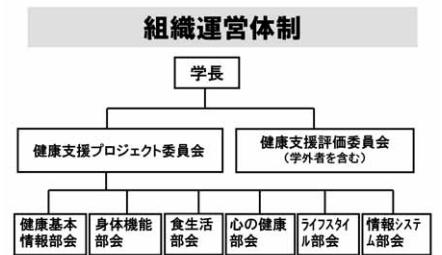


図2



的な取り組みとして、講演会や研修会、情報収集に努め、ライフスタイルの改善と健康に対する意識の高揚が図れることに期待したいと思います。

大学院ライブ授業システム

本学には、大学院「健康科学研究科」(入学定員20名)が今年度から設置され、社会人学生21名が学んでいます。

リハビリテーション・運動科学分野、総合栄養科学分野・人間環境科学分野をカバーし、健康各分野にわたる広い見識を持った高度職業専門人を養成することを目的にしています。

健康科学研究科の大きな特徴は社会人が学びやすい学習環境を作っていることです。平日の授業時間を午後6時以降の6・7時限、土曜日の授業を2～4時限という時間帯に設定しており、さらに講義科目のほとんどすべてが遠隔授業システム(ライブ授業配信システム)によって自宅で受講できます。

このシステムは音声、授業資料、板書などの情報をインターネット回線を通じて配信し、学生はチャットで質問するなど授業に参加できるというもの

です。健康科学研究科は通学制なので学内の教室で受講するのが基本です。従って、先生方は教室にいる学生と遠隔にいる学生の両方に対して同時に教えます。授業終了後は授業を記録したオンデマンド教材をいつでも見ることができるので、学生は、復習や欠席し

た場合の学習に利用しています。

今年の9月には、大学院に対する文部科学省の実地調査があり、このライブ授業システムが最大の関心事のようでしたが、実際の授業やサポートの様子を見て「問題ない」と太鼓判を押しいただきました。

学生の満足度も高く、順調にスタートできたと言えます。今後の課題は、より臨場感を持って、授業に参加していただけるようなライブ配信に質を高めていくことです。



畿央大学公開講座

11月10日・11日に第5回畿央大学公開講座が開催されました。4講座とも、定員の80名を越す方々が参加され、大きな会場に変更しなければならない程でした。

まず10日の講座Aでは、健康栄養学科の辻教授が『肥満者にしのびよるメタボリックシンドロームの脅威』とい



うテーマで、食生活の問題と解決方法や生活習慣の見直しについてお話ししました。講座Bでは、理学療法学科の庄本教授の『家庭でできる簡単な運動』というテーマで、家庭で実施可能な簡単な運動を、実際に楽しく体験しながら学んでいただきました。

11日の講座Cでは現代教育学科の柳父教授が『生涯学習のすすめ』というテーマで、年代によってさまざまな学習事実と課題があり、それを「胎教」から「枕教」まで順を追って解説し、講座Dでは、人間環境デザイン学科の齊藤教授が『老後はどこで暮らすか』



について、どこで・どのように・誰と暮らすのが良いかということを会場にいられた皆様と一緒に考えるかたちでお話ししました。

参加者の方々は、メモをとられるなどそれぞれのテーマを興味深く真剣に聴き入っておられました。

子育て支援講習会

地域の方を対象にした「子育て支援講習会」が8月27日から9月7日の10日間、畿央大学にて開催されました。

これは、社団法人奈良県シルバー人材センター協議会が、厚生労働省の委託を受けて実施するシニアワークプログラム事業の一環で、同協議会から畿央大学が受託したものです。

シニアワークプログラム事業は高齢者の雇用就業機会の確保を促進することを目的とし、高齢者を対象に地域の業種別団体や公共職業安定所の協力のもと、雇用・就業を前提とした講習会

などを行うものです。

今回の講習会は、延べ37名の先生方にご協力いただき、子育て支援の背景と現状から、具体的な養護の方法、救急措置、子どもの遊びや手作り玩具、幼稚園での実習見学など、幅広く充実した内容となりました。

受講者からは「大変お世話になりました。畿央大学がとても身近に感じられました。」「大変良くなりました。3人の子育てをした経験と10日間で学んだ新しい知識を若いお



母さん方の役に立てるように生かしていきます。」などの感想をいただき、大変好評でした。

教職員のための夏の公開講座

奈良県内の公立学校教職員を対象にした「教職員のための夏の公開講座」を8月22日、23日に畿央大学で開催しました。これは奈良県立教育研究所と奈良県大学連合に加盟する各大学が協力して行うもので、教職員の力量形成や資質向上に努めることをねらいとしています。県内の大学・短期大学が中心となって、各種の講座を開設しました。

畿央大学は「記憶の心理学 ―エピソード記憶をめぐって―」と「子どもたちのやる気を引き出すメンタルト

レーニング ―教育現場へのメンタルトレーニングの導入―」の2テーマを

開講しましたが、いずれも大変好評で、多数の受講者が参加されました。

教育学部教授 桐村雅彦

記憶の心理学 ―エピソード記憶をめぐって―

認知心理学の重要な研究領域であるエピソード記憶の中心的な考え方の紹介を主題にし、併せて日常的なエピソード記憶の現象についても説明。

健康科学部教授 東山明子

子どもたちのやる気を引き出すメンタルトレーニング

―教育現場へのメンタルトレーニングの導入―

子どもたちが生き生きと自発的・自主的に学校生活や勉学に取り組むために、大人ができる働きかけ方や効果を上げるスキルの修得を中心に研修。

第5回 畿央祭 ～SMILE～

赤ちゃんからお年寄りまで、
一家そろっての参加も多かった
地域密着型畿央祭、
今年も大盛況のうちに無事閉幕！

読書の秋、芸術の秋…。そんな秋の静けさを吹き飛ばす、元気いっぱいの畿央大学学園祭「第5回 畿央祭～SMILE～」が10月27、28日の2日間、畿央大学キャンパスで開催されました。初日はあいにくの雨模様…。屋外の一部のブースは会場を移動するなどの対応に迫られましたが、2日目はすばらしい秋晴れに恵まれました。

今年のビッグイベントは、冬木智子学長の作詞による「応援歌」の披露。学生有志の見事なハーモニーに、大きな拍手が送られました。また、模擬店や縁日、子ども向けのレクリエーション、フリーマーケット、音楽ライブに吉本お笑いライブなど、見どころ満載の催しに地域の方々も列をなし、「若い学生さんのパワーをもらい、元気になりました」とにっこり。

日が暮れ、閉会式後の後夜祭は、恒例のソーラン節とダンス部の各ユニットによる迫力あるダンスがステージで繰り広げられ、盛り上がりは最高潮。そして、この畿央祭を運営した実行委員会を代表して委員長の袁美純さんが、「学生みんなの力と、この実行委員88名全員の支えのおかげでやり切れました。ありがとう！」と閉会の挨拶。今年のテーマ曲である、ゆずの「SMILE」を会場にいる全員で大合唱し、涙のなか「笑顔」を残して今年の畿央祭は幕を閉じました。



続々と参加者が集まってきました



学長作詞の応援歌をお披露目



子供たちで大賑わいの「縁日」



一生懸命メニュー説明



子どもの笑顔いっぱい「にこにこランド」



付属幼稚園の園児による「付幼太鼓」



南さん家の染物屋の展示



染物体験もできました



思わず見とれた作品展示



わくわく子供英会話教室

◎参加者の声◎

<入試ガイダンス>

教育学部の受験を考えています。入試の教科や日程や、推薦の場合の時間の配分など何がポイントになるのかといったリアルな情報を詳しく聞くことができました。

将来は栄養系の学科の受験を考えています。推薦の科目数や点数配分など、入試のコツや流れがわかりました。

<にこにこランド>

4歳の子供もが、紙トンボやマーブリングを作って喜んでいました。初日も来たんですが「明日も行きたい」と言うので、連れてきました。普段は学生さんと話す機会がないので、来てよかったと思います。

<ゆめ★フォトカレンダー>

なかなか家では出来ない作業なので、ここで体験できてよかった。学生さんとの交流ができて楽しかった。

とても親切に対応してくださって、仕上がりも美しく、楽しかったです。

<わくわく子ども英会話教室>

家族で来ました。大学生のお姉さんたちと一緒に英語で歌を歌ったり、カルタをするのが楽しかったようです。模擬店とかだけでなく、こういう取り組みがあるのとてもいいですね。



フリーマーケットも賑わいました



受験生には入試ガイダンス



恒例のソーラン節



メール早打ちで入賞!



外の喧騒を忘れるお茶席



展示と耐震診断も行いました



人・人・人で溢れた野外ステージ



後夜祭を盛り上げた「ダンス部」



ホラーハウスの出前…



「吉本芸人ライブ」めあての人もたくさん



フィナーレは、「スマイル」を熱唱

大人気
スポット

教員と学生の共同企画「ウエルカムキャンパス」!

畿央祭にあわせて、地域の方を対象にした教員と学生の共同企画「ウエルカムキャンパス」が実施されました。今年、健康科学部理学療法学科と健康栄養学科による「健康簡単チェック」と、看護医療学科による「こんなに簡単!ステキに家庭看護」、教育学部と健康科学部人間環境デザイン学科による「ゆめ★フォトカレンダー」が行われました。

「健康簡単チェック」は、「骨密度計測」「30秒椅子から立ち上がりテスト」など5項目の診断メニューを実施。測



こんなに簡単!ステキに家庭介護



400人の方に参加いただいた「健康簡単チェック」

定結果はプリントアウトして渡され、また3年分のデータを記入できるチェックシートの効果もあって、1日で400人以上が参加。「病院ではなかなかできないことなので、ありがたい試み。今日はこの体験のために来ました」と話す人が多く、来年も期待するという声が多く聞かれました。

また、「こんなに簡単!ステキに家庭看護」では、ベッドの上での体の動かし方や、寝たままでできる衣服の着脱法など、家庭での介護に役立つ手法を披露。介護される側とする側の両方の体験ができ、参加者は熱心に取り組ん

でいました。

そして、「ゆめ★フォトカレンダー」では、その場で撮影した顔写真を好みの風景写真と合成して来年のカレンダーに仕上げました。コンピュータを使った操作には、子どもたちも興味津々。出来上がった「作品」を嬉しそうに眺めていました。

まさに、地域の方々との交流の場となったウエルカムキャンパス。教員と学生が企画を出し合って生まれた多彩なプログラムが、広く受け入れられた結果となりました。



ゆめ★フォトカレンダー

◎参加者の声◎

<健康簡単チェック>

初日は模擬店めぐりをしたので、今日はこの健康簡単チェックを目当てに来ました。5項目すべてを体験し、運動不足だと思っていたけど、意外にも体力があることが判明しました(笑)。

娘がこのブースのスタッフをやっていた

ので、朝一番に来ました。ひいき目なしで、いい内容だと思いました。椅子から立ち上がる30秒テストは、普段はできないことだからいいと思います。

小学生の子どもと来んですが、小さな子どもでも楽しみながら体験できるのがいいですね。近所に住んでいるのですぐ来られる距離にあるというのも魅力です。

<こんなに簡単!ステキに家庭看護>

私は年寄りがいる世帯ではないのですが、着替えの際は、パジャマではなく和式の服のほうが役に立つことを知ることができたし、参加してよかったと思いました。

ヘルパーをしているので、こうした基本的な介護のコツや感覚を取り戻せてよかったです。勉強しなおしました。今日の目的はココだったので、まず最初に来ました。

入学センターアラカルト

AO入試速報!

去る10月20日に2008入試の前哨戦となるAO入試の合格発表が行われました。その他大学院入試前期日程や教育学部3年次編入試験などの合格発表もすでに終了しており、募集状況は順調に推移しています。次はいよいよ前半のヤマ場、公募推薦入試前期日程ですが、新設の看護医療学科の志願者数が注目されるところです。

●2008年度 畿央大学入学試験結果

入試種別	学部	学科	志願者		受験者		合格者		倍率	
			2008	2007	2008	2007	2008	2007	2008	2007
AO入試	健康科	理学療法	56	51	56	51	7	5	8.0	10.2
		健康栄養	28	26	26	26	8	6	3.3	4.3
	教育	人間環境デザイン	7	6	7	6	5	6	1.4	1.0
		現代教育	40	52	40	51	10	9	4.0	5.7
編入	教育	現代教育	7	—	7	—	4	—	1.8	—

●2008年度 畿央大学大学院入学試験結果

入試種別	研究科	専攻	志願者		受験者		合格者		倍率	
			2008	2007	2008	2007	2008	2007	2008	2007
前期日程	健康科学	健康科学	19	17	19	17	16	17	1.2	1.0



夏休み終了後、オープンキャンパスも俄然熱を帯びてきました。9月は推薦入試英語・数学・国語対策講座を、また10月7日には、小論文試験対策講



オープンキャンパスも白熱中!

座を開催しましたが、いずれも多くの受験生が参加、熱気あふれる講座となりました。もちろんその他に、体験授業や個別相談、キャンパスツアーなども開催しましたが、参加された方からは「受験を頑張る気になった」「体験授業で看護の奥深さを垣間見ることができた」「毎回新しい発見があっておもしろかった」などのお声を頂きました。

またつい先日実施されたオープンキャンパスin畿央祭では、入試ガイダンスを終えた受験生が、配布された金券をもって模擬店へと繰り出しました。盛り上がる大学祭を体験して、一足早い畿央大学生気分を満喫。推薦入試を目前に控えた緊張感の中で、ちょっとした息抜きとなったようでした。頑張れ受験生!

看護医療学科開設記念

エッセイコンテスト

畿央大学ではこの度、全国の高校生を対象に「健康」と「教育」をテーマとする「高校生エッセイコンテスト」を実施いたしました。学園創立60周年の記念企画として2006年にスタートしたこのコンテストは、畿央大学のキーワードであり、また日本の将来にとって大きな意味を持つ「健康」と「教育」について、未来を担う若者に考えるきっかけになってほしいとの思いが込められています。2年目の今回は全国

から1004件の応募があり、審査の結果13人の方の作品が入賞、また優秀な作品の応募が多かった2校の学校特別賞が決定しました。

作品は、エッセイには特に決まった形式はありませんが、わずか800字の中に人それぞれの思いが見事に表現され、まさに高校生の等身大のメッセージと言えます。それだけに短い文章の中で自分らしさを表現する必要があります。独創的なものの見方、感性、文章力など基準は多様で、選考は大変難

しかったのですが、中でも具体的なエピソードが散りばめられ、その情景がありありと目に浮かぶような作品や、審査員に深い感銘を与えた作品が入賞作品に選ばれました。

最優秀賞作品

「祖母の生き方」

小原拓真 (北海道クラーク記念国際高等学校3年)

僕達の日常の中で、命の重さを実感する機会はありません。日々のテレビや新聞で命の重さが報じられても、新たなニュースでどんどん流されていき、結局は分かったつもりになっているだけのように思う。又最近、がん患者さんによる闘病記等から、より主観的に命の重さを感じる機会が与えられている。しかし、祖母ががんを患うまでは、やはり僕は命の重さを身近な事として考えた事はなかった。

祖母は今、肝門部胆管癌という、いわゆるやっかいな場所にできたがんを闘っている。手術、粒子線治療と可能な限り治療に挑み、数ヶ月の入院期間を経て自宅に戻った。そして次に祖母は抗がん剤治療をするか否かの選択をせまられていた。家族なら当然その治療も受けてほしいと思っていたが、祖母は副作用を懸念してまだ返事をしていないらしい。僕は検査のために数日間入院した祖母を見舞った。折りしも神戸の花火大会の日で、照明を消した病室で僕は祖母と花火を見ていた。

暗い病室の中に祖母の明るい声が響いた。「花火のような人生もいいわね。」常々枯れるように死にたいと言っていた祖母の、思いがけない言葉だった。とっさに返事はできなかったが、祖母が抗がん剤治療を断るだろうと僕は悟った。

命は長さが質か、と問われたら何と答えるべきだろうか。もし、自分でそれを選択しなければいけないとしたら、と祖母の立場になって考えてみた。なくしうになつて、初めて僕は命の重さを感じた。

数日後、祖母から抗がん剤治療は断ったと連絡がきた。花火のような人生を選んだ祖母は、今、一日一日を忙しそうに大切に過ごしている。そんな生き生きした祖母を見ていると、祖母が選んだのは花火のような儂い死に方ではなく、最後まで大輪の花火のように輝き続ける生き方なんだと思った。

入賞者発表

賞	タイトル	受賞者	高校名・学年
最優秀賞	祖母の生き方	小原拓真	クラーク記念国際高等学校3年
優秀賞	祖母の梅干し	白井愛子	大阪府立千里高等学校3年
優秀賞	預かった命	服部真子	三重高等学校3年
優秀賞	時間の重み	村上友梨奈	奈良県立西の京高等学校3年
優秀賞	幸せをつなぐ	本蘭佳奈	大阪府立千里高等学校3年
優秀賞	命って…。	横山千桃	樟蔭高等学校3年

(優秀賞は五十音順)

※佳作は7件ありました。(詳細はホームページをご覧ください)

学校特別賞 大阪府立千里高等学校 大阪府立八尾翠翔高等学校

2007年度 就職支援の取り組みと就職戦線の状況

病院合同説明会

9月29日、畿央大学にて理学療法士を志望する学生を対象に病院合同説明会を開催しました。学生が就職先を選定する時、あるいは、実習に参加する時の参考にしてもらうことがねらいです。説明に参加いただいた病院施設数は21で、奈良県から10、大阪府から7、京都府から2、滋賀県から1、和歌山県1でした。4回生対象のイベントですが、3回生にも案内し多数の参加がありました。

1時過ぎから5時近くまでびっしりと詰まった説明会でしたが、学生は真剣なまなざしで説明を聞き、かつ、熱心に質問をしていました。



終了後のアンケートによると、説明者及び学生双方、皆どっと疲れがでたようでしたが、学生全員大変参考になったとの感想でした。

4回生からは、「説明を聞いただけで、病院ごとに特色が全く違うことがわかりました。気軽に質問でき、新しく興味が出てきたり、見学したい病院が見つかりました。また、自分自身の考えをまとめるいい機会になった。」とのコメントをもらいました。

3回生からは「3回生が病院説明会を聞いても意味がないと思っていたが、いざ聞いてみると、病院の特徴、病医院以外の施設のこと、病院自身の考えなどが分かり、やる気が出てきた。実習に行く時にも大いに役立つと思う。」という、うれしい感想でした。

本学ではじめての合同説明会でしたが、学生にとって大変有意義な企画ということがわかりました。病院の方のご意見もお聞きし、よりよい合同説明会をめざし、今後、毎年開催していく予定です。

4回生、内定にむけて奮闘中

健康科学部では、4回生が1期生以上の馬力で就職活動に取り組んでいます。

人間環境デザイン専攻と健康栄養専攻の学生は昨年に比べて2カ月ほど早く内定を受けており、過半の学生が就職活動を完了しています。

理学療法学科は例年通り、9月から就職活動が始まりました。現在、全員病院見学や面接に奔走しています。12月までにほとんどが内定するものと思われます。

教育学部は設置されて2年半が過ぎ、学生はこれから進路選択の正念場を迎えます。大半が教職採用を目指しますが、キャリアセンターでは来年度から教育学部の学生も視野にいれたキャリアガイダンスと就職指導を予定しています。

内定者の声

理学療法学科Aさん（病院）

スポーツ整形中心のリハビリに力を入れている総合病院で、見学の患者さんへの接し方に心温まるものを感じ、志望しました。履歴書を友人やキャリアセンターの方にみてもらい、自分で納得できる履歴書を作ることができたのがよかったです。

管理栄養学科Bさん（食品会社）

生来、お菓子が好きで、この業界にしました。アットホームな社風で、新店オープンに関わることができることが志望理由です。キャリアセンターで履歴書をみてもらったり、就職ガイダンスに参加したことがよかったです。

人間環境デザイン学科Cさん（住宅メーカー）

住宅展示場に行って、事業分野が広く魅力ある商品が多いところに惹かれました。特に建築業界を志望する女性は、強い精神力をもって乗り越えてください。熱意が伝われば、自分を見てくれる会社が絶対に見つかります。

大学説明会&情報交換会

10月26日、ホテル日航大阪で、大学説明会&情報交換会を開催しました。この会を通して、日頃のご厚意への感謝とこれからのさらなる絆が築ければとの願いを込めて開催したものです。

本学では、現場での実習体験を必修とする学科が多く、たくさんの方の病院施設および企業にその場を提供いただいています。今年度は、健康科学部の各学科が実習・インターンシップおよび就職でお世話になっている病院・施設・企業をご招待しました。

あいにくの雨模様でしたが、近畿地区はもとより関東方面からも人事部門や、現場の第一線で指導されている方々を中心に150名の参加をいただきました。今春就職した1期生の活躍ぶりが評価されているのではないのでしょうか。

学科が業界に特化しているため病院施設様会場と企業様会場を準備し、それぞれで学長挨拶、学部長の大学紹介および、各学科長から教育方針・授業の特色などを紹介しました。

参加者からは、「大学の内容が良く理解できた」、「学生を大切にしている大学」との感想をいただきました。

キャリアセンターから



も就職活動支援の視点から、現在の取り組み状況を説明しました。特に、健康栄養学科および人間環境デザイン学科の4回生に行った就職活動に関するアンケートの結果紹介は、学生の生の声が聞けたということで大変好評でした。企業の採用活動の参考にしていただけたようです。

「貴校が教育に力を入れていらっしゃることはもちろん、就職を通して『人』の成長にも熱心に力を注いでいらっしゃることを強く感じる事が出来ました。今後も、こういった機会をいただければ幸いです。」というお礼状を早速にいただきました。

教職員との懇親の場では、実習あるいはインターンシップ受入および求人採用のお礼からはじまって、和やかな雰囲気の中で話がはずみ有意義な情報交換会になりました。

来年以降も、皆さまに参加して良かったと評価いただけるような大学説明会&情報交換会を企画していく予定です。

ガンバル学生シリーズ

理学療法学科

KIO介護予防プロジェクトは第2期目を9月10日から開始しました。実施日は週2回各2時間です。参加者は、中枢神経疾患の方が4名、末梢神経疾患の方が1名です。ほとんど毎回参加されていて、理学療法学科・健康栄養学科学生たちとの交流も楽し

KIO介護予防「元気塾」

んでいらっしやいます。

ところで、我々のプロジェクトに参加している人は、国の言う「介護予防事業」の対象者のみではなく、それ以上の要介護の人も含んでいるのが現状です。従って、今回から「KIO元気塾」という名称に変更し



ました。新たな名称でより多くの人々との取り組みをすすめていきます。

ガンバル学生シリーズ

健康栄養学科

朝8時を過ぎるころ調理実習室辺りは「おはよう」「おはよう」と皆いつもより少し緊張した顔で白衣に着替え始めます。爪は？検便結果は？朝礼でチェックしていよいよ調理開始。何度もダメ出しをされ、クラスの算出栄養目標量に近づけるよう溜息

「緊張の給食経営管理論実習」

をつきながら出来上がった献立。思っている味、分量、彩に仕上がるのか？なんとか時間に間にあってお客様とクラスメートに供食したものの、アンケート結果が気になる栄養士班でした。最後の後片付けを終了、頑張っって少し疲れて、第一回目給食経営管

理論実習を終えました。



ガンバル学生シリーズ

人間環境デザイン学科

今年度から2・3年生共同のプロジェクトゼミが始まりました。その中の一つのグループは地域の有志の集まり「三輪座」が主催する住民参加で、三輪駅前を具体的にデザインするプロジェクトに参加し、「三輪駅前広場デザインゲーム」にとりかかりました。まず第1回目は駅前広場が持つ役割

「みんなでつくる三輪駅前広場」に参加

や広場づくりのコンセプトづくりのための話し合いです。小学生から高齢者まで50人以上の人たちに混ざり、学生たちも活発に意見を述べ、まとめの発表も行いました。次回からは、町を歩き、イメージづくりなどのワークショップを行います。実際のまちづくりの現場に携わり、有意義な時間を過



ごせることと思います。

ガンバル学生シリーズ

現代教育学科

この春、全学部対象の学校インターンシップがスタートしました。参加学生は前期38名、後期78名です。協定校も前期の大和高田市、奈良市、堺市の他に、後期は広陵町、香芝市も加わりました。週に1~2回の経験ですが、それでも学生の変化には目を見張るものがあります。

多様な人との関わりを経験できる学校インターンシップ

どう接して良いのか分からず右往左往したり、一緒に遊ぶことはできても叱ることがうまくできずに悩んでいた学生もいましたが、多様な人々に関わる方法を徐々に獲得していく姿がみられました。

このような経験は学生の時期だからこそ出来る貴重なものになっています。



汗!土!水!太陽!空気!人!命!感動! Learning by Doing「こんな感動!久々です」

「土を耕すって本気になることでした。」「畝作り・施肥・かん水・の忙しさ。」「次々実る作物…こんな感動久々です。」「先生として教壇に立った時この授業で学んだ事を教えます。」「子どもたちにも私にも生きる力が付きます。」

総合演習:栽培系グループ。学びのフィールドは第2キャンパスの畑、人は、自ら学

び、考え、判断し、自らの意志で行動しなくてはなりません。教育上の現代的課題に対応できる先生を目指し、為すことによって学ぶ Learning by Doing を重視、汗を出し、知恵を出し合い学び合った畿央生たちです。



畿央大学同窓会設立総会・第1回同窓会

5月27日、爽やかな五月晴れのもと、この春、畿央大学として初めて集立った第1回卒業生が、2ヶ月ぶりに母校に戻り、恩師・友人と互いの近況などを話し友好を深めました。

総会においては、会則を決定し、役員の出が行われました。また、畿央大学短期大

学部同窓会(蘭桜会)を引き継ぎ、新たに畿央大学同窓会として、開催していくことについて提案があり、参加者の賛同を得ました。

教育学部長、各学科長の先生方からの卒業生をバックアップしたい旨の挨拶での力強いエールに卒業生も母校をより身近に感じていただけました。



畿央大学運動会

絶好の晴天の中、畿友会主催の運動会が5月26日、開催されました。この運動会には新入生が早く先輩達と馴染んで欲しいという意味が込められています。事実、約200名の参加者の内4割が新入生でした。

競技は、各学科対抗で行われ、玉入れ、ムカデ競争、クラブ対抗リレー、障害物競走、綱引き、学科対抗リレーの種目がおこなわれました。どの種目も力が入り、応援も盛んで、大いに盛り上がりました。新入生も先輩とうちとけ、心身ともに満足した一日となりました。



星城大学との合同合宿

8月27、28日、学生のサークル、畿央大学理学療法研究会(略称SAPS)の部員11名は星城大学(愛知県東海市)リハビリテーション学部の学生サークル、形態機能クラブの部員14名と大台ヶ原で1泊2日の合同夏合宿を行いました。本学から金子健康科

学部長、星城大学から唐沢教授(解剖学担当)と田邊助教授(西洋史担当)の3名の教員も参加しました。夜には先生方のセミナーで勉強をしました。翌日は大台ヶ原のハイキング、「当麻の家」での餅つき体験などを通じて交流を深めました。来年も合



同夏合宿を行う予定です。

吐山キャンプ

教職を志す学生や教育に関心のある学生たちが自ら企画した1泊2日のキャンプ「学習キャンプ2007～自然から学ぼう～」を、9月6日(木)・7日(金)に奈良県立青少年野外活動センターで実施しました。

学生の意欲とパワーをボランティア情報室が応援し、青少年野外活動センターのご協力もいただきながら、学生による実行委員会が企画・準備を進めました。60名の学生が参加。レクリエーションやキャンドルファイア、ネイチャーゲーム、自炊など、自然体験を通して野外活動のスキル向上や交流を図る熱い2日間となりました。



大橋一真さん、厚生労働大臣賞を受賞

このたび第26回「肢体不自由児・者の美術展」に本学人間環境デザイン学科3回生・大橋一真さんが応募された作品が、厚生労働大臣賞に選ばれました。

これに伴い入賞作品の展示会(東京地区)が12月6日(木)から9日(日)ま

での4日間、東京池袋の「東京芸術劇場展示ギャラリー」にて行われます。

また、展示会初日には日本肢体不自由児協会総裁常陸宮殿下ご臨席のもとに午前10時30分より作品鑑賞、引き続き午前11時より表彰式が行われます。



畿央大学のスグレモノシリーズ ⑦

マルチ周波数体組成計

体組成とは、体を構成する脂肪・筋肉・骨・水分などの組成成分のことをいい、これらの組成成分のバランスが乱れると生活習慣病や

体調不良に陥ることがあります。

本学では、学生が自らの健康状態と生活リズムを客観的に把握して改善する「健康支援システムプロジェクト」(学生支援GP)の一環として体組成の状態を知ることが組み込まれています。本学のマルチ周波

数体組成計は、「体重」「体脂肪率」「筋肉量」「推定骨量」「左右筋肉バランス」「内臓脂肪(レベル)」「基礎代謝量」「体型判定」などを約1分で測定することができるというスグレモノです。



挨拶と笑顔が交差し 躍進をめざす 関西中央高等学校



関西中央高等学校長
佐藤 正平

本校の朝は元気な挨拶と笑顔と朝の10分間読書を告げる生徒の爽やかなナレーションで一日がスタートしています。

授業においては、本年度から新しいエンカレッジ進学コースの開始と共に、「絶対伸びる、伸ばします」の本校のキャッチフレーズの具現化のため、基礎基本の定着と希望する進路実現を目標にした新しい関西中央高等学校がスタートしました。そして生徒の学力を「伸ばすため」二学期制、隔週6日授業、到達度別授業、少人数指導、外部講師の導入等々きめ細かで、公立高校では出来ないシステム作りでわかる授業を進めています。また、全教員の資質向上のため予備校による授業アンケートの実施、自己申告シート、シラバスの作成など教員のモチベーションを高め、指導力を高めると同時に、わかる授業推進のため最先端の情報機器を活用した取組をも展開しています。

今後は「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」という建学の精神に基づき、さらなる特色と魅力ある教育活動を行い、豊かな人間性を身につけた人材の育成を図ると共に本校の更なる躍進をめざして現在頑張っているところです。

これが私の英語授業！ デジタルメディアの上手な活用法

関西中央高等学校 英語科教諭
深田 将揮

関西中央高等学校では、デジタルメディア教材を使った英語教育を実践しています。

外国語学習に特化した「外国語学習ルーム」では、コミュニケーション活動に適した学習環境を作り、コンピュータを利用したより豊かな授業環境を生徒に提供しています。

コンピュータを用いた一斉リスニングの授業では、①音声加工ソフトを使った音声教材、②パワーポイントを使ったリスニング教材、③e-Learningを使った自発学習支援システム教材を英語科の教員で作成しています。

例えば、教科書の音声CDだけでは、ここで切りたい、またチャンクごとに聞かせたいといったことが出来ません。そこで、音声編集ソフトを活用し、何度も聞きたい部分を選択して繰り返すことで、今まで聞き取れなかった語と語のつながりを明らかにすることが可能になりました。

次に、プレゼンテーションソフトで、音声教材の本文テキストを提示することで文字と音声を同期させます。従来の教室で行うリスニングの場合、個々が「音」だけに集中する

活動でしたが、スクリーンを用いて教材を提示することで、聞き取りにくい部分の指摘や、音声と文字との関係がより明確になりました。

さらに、本校では、関西大学工学部冬木研究室の協力の下、授業と学習を統合的に支援するe-Learningシステム、『CEAS(シーズ)』を導入しています。このシステムは、教師がWEB上に次回学習する教材をあらかじめ配置しておくことで、生徒は自宅のパソコンからアクセスして、予習を済ませ、授業後にはさらに発展させた知識や問題に取り組むといった一連の学習サイクルの構築を可能にしてくれました。これにより、生徒は自主的に学習に取り組み、興味を持って英語学習に取り組むようになりました。

しかも、WEBの特性を活かし、生徒自身が録音した会話の内容など生徒の成果物を他の生徒と共有することで、お互いの振り返りが



CEAS上の掲示板やチャットで行われています。これは、生徒の学習スタイルや学習に対する考え方を変化させる大きな要因になっています。

2006年度に1年生に行ったアンケートによると、このようなデジタルメディアを積極的に授業で取り入れることで、ほとんどの生徒が英語がわかるようになったと答えています。

今後は、生徒にあった有益な教材を豊富に作成し、それらを蓄積、更新して教材のデータベースを作成したいと考えています。それらの教材を他の学校や教育機関と共有出来れば、次世代の英語教育の礎が出来るのではないかと考えています。

平成20年度 入試募集

特進 募集人員30名

●特別進学コース

豊富な授業時間を確保し、より質の高い学習環境を提供し、志望大学にあわせた高い学力を養成。志望大学への進学を目指します。畿央大学への内部推薦も有利です。

エンカレッジ 募集人員は併せて170名

●スタンダードコース

基礎学力の充実を図り、可能性を広げ、多様な希望進路の実現を図ります。

●アスリートコース

(野球・剣道・ソフトテニス限定)
「文武両道」を目指し、学習面だけでなく部活動にも取り組みながら、「心・技・体」に優れた生徒の育成を目指します。

入試説明会

12月15日(土)13時から本校にて

なお、進路相談は随時対応いたしますので、いつでもご連絡ください。

お問い合わせ
関西中央高等学校 広報室
TEL 0744-43-1001 (代表)

文化祭2007

9月13日と14日の両日、「打ち上げよう! 関中魂!! ～作りだそう! ひとりひとりの楽しい思い出を～」をテーマに、第44回文化祭が行われました。13日は桜井市市民会館を会場に、2年3組によるビリーズブートキャンプを踏まえた活気あふれる開会行事からはじまりました。

今年は、鎌鼬・NONSTYLE・ストリークという3組の漫才師をゲストとしてお招きしました。漫才を実際に見たのは初めてという生徒も多く、漫才の楽しさ、おもしろさを感じられる1時間でした。有志によるバンド演奏とダンス演技、そしてバトントワリング部による演舞、1年3組による「3匹のこぶた」と2年4組による「西遊記2」の2本の劇が演じられ、日ごろか



ら多彩な活動をしている本校の生徒の力が発揮されました。「西遊記2」は、昨年の1作目から続く3部作の予定ということで、来年が期待されます。

また、今年で2回目となるクラス対抗歌合戦では、優勝は2年3組「津軽海峡冬景色」、準優勝は3年4組「WAになっておどろー3年4組Version-」、第3位は1年1組「SHAMROCK」という結果になりました。すべてのクラスが夏休み前後から熱心に練習に取り組んだ歌と演出が披露され、クラスの個性がぶつかり合う結果となりました。最後は、全校生徒による「風になりたい」「千の風になって」「旅立ちの日に」の合唱で、会場全体が一体になって幕を閉じました。

14日は、本校を会場に、人権体験作文発表会、フリータイム、バザー、展示が行われました。正門には、2年1組制作の文化祭ゲートが立ち上がり、生徒会中央役員によるペンギンをモチーフにしたマスコットキャラクター「ペンちゃん」も展示され、楽しさを盛り上げました。1年2組が装飾を担当したメモリアルホールで行われたフリータイムでは、2年5組の緻密な企画で、各クラスの代表が、ロシアンルー



レットのゲームに、クイズやアームレスリングに挑み、それぞれに生徒全員が楽しいひとときを過ごすことができました。バザーでは、ジャンボフランク(3-1)、焼き鳥(3-2)、焼きそば・かき氷(3-3)、みたらし団子(3-4)、たません(2-5)、カレー・ミルクプリン(クッキング部)、さらには茶華道部の野点に、育友会恒例のケーキコーヒーセットとバラエティあふれるメニューがラインナップされました。展示会場では、各授業や部活動による作品、夏休みに制作されたポスター等の作品、2年生による総合学習の発表等があり、2年2組の貼り絵アートのオブジェや1年1組の折り鶴アート「なんちゃって北斎」も目を引きました。夏休みを含めた全力をあげた取り組みで、校内はたいへん活気づき、ひとりひとりが楽しい思い出を作ることができたようです。

体育祭2007

9月28日、さわやかな晴天のもと、第44回体育祭が行われました。学年ごとに特製のTシャツに身をつつみ、ハチマキを締めた全校生徒が、気合いに満ちた表情で一所懸命に取り組みました。

50m、100m、200m、1500m走のトラック競技では、世界陸上大阪大会を彷彿とさせるような意気込みと真剣さが伝わってきました。毎年恒例の女子による「竹取物語」では、こつをつかめない1年生チームが立ち往生してしまう初々しい姿が見られました。男子は「ムカデ競争」で、メンバー全員が前後左右に一齐に倒れ込む姿や、一歩も踏み出さず立ち往生してしまう場面もありましたが、来賓の方々やクラスメートからの声援を受けて、最後には

声を掛け合い足並みをそろえてゴールしました。

「サスケ」は男子生徒が軽やかに竹を上り下りし、騎馬を組んで疾走しました。「釣り名人」「障害物競走」「借り人競争」では、それぞれの課題に大あわてする生徒もいれば、悠々と落ち着いて関門をクリアしてゴールを走り抜ける生徒もいて、個性が表れました。部活対抗リレーでは、各部がとりどりのユニフォームに着替えて参加し、ボールやバトン等の各部必須のアイテムを携え、真剣な中にもユーモラスさを醸しつつ走る姿が印象的でした。

また「綱引き」では、3年生が素晴らしいチームワークとパワーを見せて教員・来賓チームを圧倒したことも今年の見どころでした。

今年も来賓の方々には、「綱引き」、「借り人競争」、「来賓

競技」と多数で参加いただき、大いに雰囲気盛り上げていただきました。

体育祭のクライマックスに用意されたクラス対抗リレー、学年対抗リレーは、それぞれのクラスの駿足がそろい、観客も巻き込んだ白熱した戦いとなりました。

学年対抗で行われた体育祭の総合優勝は1年生となりました。クラスメートを応援し、カー杯競技に取り組んだ一日は、生徒一人一人にとって忘れることのできない思い出になりました。



大好評のうちに「オープンスクール」開催

10月20日、「一人でも多くの方に今の関西中央高等学校を見ていただきたい」という思いを込めて、在校生たち自らの企画・参画による「オープンスクール」を開催しました。当日は奈良県全域、さらには三重県からも総勢200名に近い方が参加され、大変盛況でした。

スライド上映による本校の紹介のあと、バトントワリング部による演技、有志によるブレイクダンスがあり、参加者からの拍手喝采で幕を開けました。放送部員の司会で、まず佐藤校長が「本校の生徒は素直で素晴らしい。教職員は生徒のために親身になってくれる近畿で一番温かい先生たちです。ぜひ本校で学力や人間性を伸ばして欲しい」と挨拶しました。また、生徒会長鈴木君と副会長吉村君は、「関西中央高等学校はこんな学校です」と本校を生徒の視線からアピールしてくれました。

教務部長からコース別の学習内容や学校生活の説明、広報室長より平成20年度入学試験に関する説明をし、前半の締めくくりとして畿央大学から、大学との連携についての説明がありました。参加者たちはメモをとりながら熱心に聞き入っていました。

後半は、国語・数学・英語・情報の4教室に分かれて「高校授業ミニ体験」から始まりました。笑い声の響く中、生徒



と保護者が机を並べて授業を受け、参加者からは「大変わかりやすく楽しかった」との評価を頂きました。

授業のあとは「個別進路相談」「施設見学」「部活動見学」を行いま

した。待合室のカトリアホールでは、赤い番傘の下、茶華道部による野点、クッキング部のクッキーのおもてなしがありました。また生徒会による「高校生活相談コーナー」も設置、中学生からの質問に対しいろいろなアドバイスを送っていました。参加者は在校生たちの心のこもったおもてなしに大変喜んでいただいた様子でした。

参加した中学生からは「先生や先輩方の笑顔が満ちた学校だなと思った」(男子生徒)、「先生方も優しく、雰囲気がとても良かった」(女子生徒)、「この学校で勉強したいと思った」(男子生徒)などの声があり、保護者からも「先生方の熱心がすごくわかった」「これから伸びる学校だと感じた」「在学生在が楽しそうで、礼儀正しく感心しました」「とても感じが良く、子供を安心してまかせられる高校だと感じた」などの声を頂きました。

当日は併せて本校主催「第3回中学生作文コンテスト」の表彰式が行われ、参加作品約450編から、以下の5名が表彰され、最優秀賞の皆見さん自らの作文朗読もありました。

最優秀賞	香芝西中学校	皆見奈緒さん
優 秀 賞	桜井中学校	勝村真歩さん
	木津第二中学校	杉本裕子さん
佳 作	桜井中学校	梶間美穂さん
	大成中学校	樽林佑起くん

県高校総体準優勝！ ソフトテニス部

関西中央高等学校ソフトテニス部
顧問 大森淳史



9月15日に行われた奈良県高等学校総合体育大会(ソフトテニス競技)において、Aブロックで準優勝、Bブロックで第5位に入賞しました。決勝戦では全国屈指の高田商業高校には敗れましたが、よく健闘しました。関西中央高等学校ソフトテニス部としては初の県大会入賞です。

春のインターハイ・近畿大会予選では、惜しくも近畿大会出場を逃しましたが、3年生の引退後、その悔しさをバネにして、毎日始業前の早朝7:30~8:15、放課後16:00~19:30の練習に、休日には他校との練習試合、夏休みの合宿、県外への遠征を重ねてきました。

個人戦でも、県中南部大会3位入賞など、その積み重ねで少しずつ力もつき、結果が出せるようになってきました。

しかし、技術的にも、精神的にも未熟であり、まだまだ鍛えていかなければならないことがたくさんあります。特に接戦になったときの思い切りや精神的な弱さ等が目立ちます。

1球1球の大切さ、厳しさを練習の中で身につけ、接戦になったときこそ力を発揮できる選手を育て、来年度にはまず近畿大会に出場できるチームを作り上げていきたいと考えています。応援よろしくをお願いします。

たのしい行事がいっぱい!!

お泊り保育(年中・ゆり組)

夏休みに入って最初の7月23日24日、年中(ゆり)組のお泊り保育がありました。夕食のカレーライス材料を買いに近くのスーパーまで出かけ、畿央大学の学生さん

にも手伝ってもらい、おいしく頂きました。また、畿央大学の村田先生や5人の学生さんとともに、染色の美しさ感動しながら2つとないハンカチ作りに挑戦しました。お布団を引きつめた広い記念館のホールいっぱい寝ている子どもたちの姿は、まさに天使のように純真でした。



卒園旅行(年長・さくら組)

夏休み明けの9月6日7日、年長(さくら)組の1泊2日の卒園旅行がありました。曾爾高原の大自然の中で友情の絆を深め、幼児期の思い出をいつまでも持ち続けられるようにと、毎年行われる付属幼稚園ならではの行事です。当日はあいにくの天気でしたが、観光バスで国立曾爾少年自然の家

に向かいました。先生方が用意した数々の活動やゲームで、夕食の時間を忘れるほどに楽しいひと時を送りました。夕食後はキャンドルファイアを楽しみ、お風呂に入って眠りに付きました。7日は天気も回復して、ススキの茂る高原を散策し、午前11時すぎ、保護者の方の出迎えをうけて無事帰園しました。集団生活を通して役割を果たすこと、決まりを守ることなど楽しい中にも多くのことを学んだ2日間でした。



秋晴れの下、秋季運動会開催(全園児)

10月6日、第29回秋季運動会の幕が開きました。これまで園から少し離れた冬木総合グラウンドで開催してきた運動会、今年は、原点に戻って「小さいながらも楽しい我が家」をモットーに、本園園庭で開催しました。

十数年ぶりのホームグラウンドでの運動会は秋晴れの好天に恵まれ、子どもたちも

日頃の練習の成果を十二分に発揮してくれました。開会式の入場行進はマーチング演奏「ボギー大佐」にのって軽やかに、お昼のお弁当後のスタートは「付和と太鼓」で力強く、懸命にがんばる子どもたちの姿に家族の方々も感動され、盛んにシャッターを切っておられました。園庭開放も兼ねた運動会で、未就園の子どもたちやお父さん



お母さん方もたくさんご参加いただき、手遊びや駆けっこを楽しんで、大いに盛り上がった1日となりました。

秋の遠足で奈良公園へ(全園児)

運動会が終わって間もなく、10月16日、秋の遠足で奈良公園を訪れました。修学旅行生に混じって外国人の観光客も沢山いて、子どもたちの姿を見て盛んにシャッターを

押していました。大仏さまを觀賞したり、鹿とたわむれながら深まる古都の秋を1日楽しみました。



収穫の秋(全園児)

10月18日、6月の日曜参観でお父さん、お母さんとポリバケツに植えた稲を、みんなで刈りました。今年は桜井農協様の協力も得て。お米の大切さ、収穫までの苦勞な

ども学びました。10月22日には春にみんな植えたサツマイモ掘りを行いました。夏の暑い日、水遣りや草引きをくださった園芸部の役員の方々に感謝しながら、まだ青々とした長い長いつるを引っ張ると、大きなおいもがたくさんたくさん連なって出てきました。



消防自動車を招いて写生会(年長・さくら組)

11月9日から全国一斉に秋季火災予防運動が実施されるに伴って様々な催しが行われますが、それに先立ち10月12日、桜井消防署から消防車を園に招いて写生会を行い、

火災予防についての関心を高めました。11月9日～15日までJR桜井駅前「まほろばセンター2階研修室」に年長組の作品が展示されました。



冬木学園トピックス

付属幼稚園 畿央大生の見学実習を受け入れ

畿央大学教育学部では、教育実習の入門講座として「幼稚園見学実習」が設けられています。付属幼稚園では、10月15日より学生を受け入れを始めました。



緊張していた学生たちも実際に幼稚園現場に入ると、「先生」と声をかけてくる園児に表情も和らぎ、現場に触れる喜びを感じているようでした。子どもたちも若い「先生」の登場に歓声を上げ、お話を耳を傾けたり、遊びに誘ったりと楽しく過ごしています。

蘭桜会 総会



5月13日、母の日に、第40回蘭桜会総会を大学にて行いました。卒業生27名と学長はじめ教職員7名が参加しました。

第1部は、平成18年度をもって幕を閉じた畿央大学短期大学部（桜井女子短期大学）の同窓会（蘭桜会）を畿央大学同窓会が引き継ぐ件について提案があり、7000名を超える短期大学部の卒業生が引き継がれていくことは、より大きな組織として継承されることであると、参加者の賛同を得ました。第2部は、中庭で写真撮影をし、食堂にて懇親会を行いました。ピンゴゲーム大会には卒業生の子どもさんたちも参加し、楽しい時間を過ごしました。

来年度は、また違った形の同窓会になると思います。桜井女子短期大学・畿央大学短期大学部卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

畿央大学に応援歌 誕生

冬木学長作詞、大中恩氏作曲による応援歌が誕生しました。10月28日の畿央祭にて、有志の合唱によりお披露目しました。

たぎり立つ 青春の血潮 さわやかに
伝統きづく 我が力が
いざ たけき若人
いざいざ示さん 畿央大学
光あり 生命きらめく 大空に
双手をあげて 我がが感慨
いざ 闘志を胸に
いざいざ向かわん 畿央大学
栄光の 夢にむかいて 高らかに
まなこ輝く 我がが願い
いざ 永遠（とわ）なる歩み
いざいざ築かん 畿央大学

畿央大学 応援歌

作詞 冬木智子
作曲 大中恩

畿央大学 応援歌

冬木智子 作詞
大中恩 作曲

関西中央高校ファミリー入試

本人はもちろんのこと保護者や兄弟姉妹が本学園出身の方、または兄弟姉妹が本学園在学である受験生の場合は次のような特典があります。

受験料免除 受験料の15,000円が免除されます(専願のみ)
入学金免除 入学金の110,000円が免除されます(入学決定者のみ)

毎年進学実績が伸び、また生徒指導上でも安定している母校へ奮って受験いただくよう、関係者へもお知らせいただきますようよろしくお願い申し上げます。
「入試説明会(進路相談会)」にもお誘い合わせの上ご参加ください。

園児募集中

募集年齢：3年保育(3歳児)・2年保育(4歳児)・1年保育(5歳児)

本学園は、畿央大学の付属幼稚園として、大学の先生方や大学生との交流を深め、「造形指導」「音楽指導」「体育指導」「英語指導」など、専門の講師を招聘して、知性・個性を重視した教育を実践し、次世代を担う子どもたちの健やかな成長と幸せを願って、幼児教育を進めています。

お問合わせ：〒633-0004 桜井市朝倉台西5丁目1093-321
畿央大学付属幼稚園 TEL 0744-45-0151
HPアドレス <http://www.kio.ac.jp/kiokinder/kinder.htm>

学園からのお願い

ご住所やお名前が変わられた際は、お手数ですが学園事務局までご連絡ください。